



理想の森プロジェクト(京都市北区)

京都市北区雲ヶ畑。地下鉄北大路駅からバスで40分ほど揺られ、鴨川沿いを北上すると、間伐材で作った丸太小屋が、出てきてくれる。

地元で生まれ育った久保常次さん(77)が自宅近くの山林1畝を借り、クヌギやコナラなどの広

た。荊上佑樹代表(33)は「感慨深かったですよ」と喜ぶ。

「山が変わる」効果までは期待しない。森づくりを通じて、雲ヶ畑の林業とまちの人たちの接点になれば」と、参加者の意識の変化を期待する。京都で新作りを行うグループとのネットワークも生まれつつあり、地産地消に向けた活動も見据える。

最初の植林から10年以上経過し、直径15センチに成長した広葉樹の伐採収穫にこぎ着ける。4日には約15人が参

加し、山頂付近にあるアカマツの天然林を整備した。

スタッフの紹介で初参加した和太鼓奏者の富松

慎吾さん(45)「北区は「都会では人間の都合で何でもできるが、自然に合わせた生活を実感でき。何より空気が違い

ますね」と笑顔。作業後、参加者は持ち寄った弁当を笑顔で食べた。

採した竹を使った流しそうめんなどの企画もあり、親子連れでの参加も目立つ。久保さんは言う。「山は大きく手に負えないが、若い人に手伝ってもらい、馬力をもらっている。子どもも来てくれて楽しい。憩いの場になれば、うれしいね」

植林や間伐だけでなく、餅つき大会や、伐

理想の森プロジェクト
国産木質エネルギーの普及団体「薪(しん)く炭(たん)くKYOTO」のプロジェクトのひとつとして2003年ころ始まり、12年に独立。スタッフは8人。問い合わせはメールアドレスriso-h-forest@yahoo.co.jp

(大竹逸朗)

林業とまちの人をつなぐ



天然林の整備を行う家族連れの参加者(京都市北区)